

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 2 区分

【発行日】平成29年1月19日 (2017.1.19)

【公表番号】特表2016-519961(P2016-519961A)

【公表日】平成28年7月11日 (2016.7.11)

【年通号数】公開・登録公報2016-041

【出願番号】特願2016-511732(P2016-511732)

【国際特許分類】

A 6 1 N 1/18 (2006.01)

A 6 1 F 13/00 (2006.01)

A 6 1 K 41/00 (2006.01)

A 6 1 P 17/02 (2006.01)

A 6 1 L 15/16 (2006.01)

A 6 1 F 13/02 (2006.01)

【 F I 】

A 6 1 N 1/18

A 6 1 F 13/00 3 0 1 Z

A 6 1 K 41/00

A 6 1 P 17/02

A 6 1 L 15/16 1 0 0

A 6 1 F 13/02 3 4 5

【手続補正書】

【提出日】平成28年11月29日 (2016.11.29)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 1 7 7

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 0 1 7 7 】

ここで開示されている特定の実施形態は、更にconsisting of 又はconsisting essentially ofの言葉を使用して請求項中で限定されてもよい。出願時か補正によって追加された場合のいずれでも請求項で用いられた場合、移行語である"consisting of"は、請求項で特定されていない全ての要素、ステップ又は材料を排除する。移行語である"consisting essentially of"は、請求項の範囲を、特定された材料又はステップと、基本的及び新規な特徴に物質的に影響しないものと、に限定する。そのようにクレームされた本開示の実施形態は、本質的に又は明示的に説明されており、ここで利用可能である。

[ 付 記 ]

[ 付 記 1 ]

少なくとも 1 つの低レベル電場 ( L L E F ) 又は低レベル微電流 ( L L M C ) を生成することが可能な生体適合性電極を備える基体を備え、

前記基体は少なくとも 1 つの不連続領域を備える、  
ことを特徴とする創傷被覆材。

[ 付 記 2 ]

前記生体適合性電極は、第 1 の導電性材料から形成されたマイクロセルのパターンを備える第 1 のアレイと、第 2 の導電性材料から形成されたマイクロセルのパターンを備える前記第 2 のアレイと、を備える、

ことを特徴とする付記 1 に記載の被覆材。

[ 付 記 3 ]

前記第 1 の導電性材料と前記第 2 の導電性材料は、同じ材料を備える、  
ことを特徴とする付記 2 に記載の被覆材。

[ 付記 4 ]

前記第 1 及び第 2 のアレイは、それぞれ個別の回路を備える、  
ことを特徴とする付記 3 に記載の被覆材。

[ 付記 5 ]

電源を更に備える、  
ことを特徴とする付記 4 に記載の被覆材。

[ 付記 6 ]

前記第 1 のアレイ及び前記第 2 のアレイは、自発的に L L E F を生成する、  
ことを特徴とする付記 2 に記載の被覆材。

[ 付記 7 ]

前記第 1 のアレイ及び前記第 2 のアレイは、前記アレイ同士が電氣的に接続された場合  
に、自発的に L L M C を生成する、  
ことを特徴とする付記 6 に記載の被覆材。

[ 付記 8 ]

前記 L L E F は、0 . 0 5 から 5 ボルトの間である、  
ことを特徴とする付記 6 に記載の被覆材。

[ 付記 9 ]

前記 L L E F は、0 . 1 から 5 ボルトの間である、  
ことを特徴とする付記 8 に記載の被覆材。

[ 付記 1 0 ]

前記 L L E F は、1 . 0 から 5 ボルトの間である、  
ことを特徴とする付記 8 に記載の被覆材。

[ 付記 1 1 ]

前記基体は柔軟性材料を備える、  
ことを特徴とする付記 1 に記載の被覆材。

[ 付記 1 2 ]

前記 L L M C は、1 から 2 0 0 マイクロアンペアの間である、  
ことを特徴とする付記 7 に記載の被覆材。

[ 付記 1 3 ]

前記 L L M C は、1 から 1 0 0 マイクロアンペアの間である、  
ことを特徴とする付記 1 3 に記載の被覆材。

[ 付記 1 4 ]

前記 L L M C は、1 0 0 から 2 0 0 マイクロアンペアの間である、  
ことを特徴とする付記 1 3 に記載の被覆材。

[ 付記 1 5 ]

前記 L L M C は、1 5 0 から 2 0 0 マイクロアンペアの間である、  
ことを特徴とする付記 1 3 に記載の被覆材。

[ 付記 1 6 ]

少なくとも 1 つの軸に沿って拡張可能な創傷管理システムであって、  
そのような創傷管理システムは、生体適合性マイクロセルのマルチアレイマトリクスを  
その表面に備える柔軟性の被覆材料を備え、  
そのようなマトリクスは、第 1 の導電性材料から形成されたマイクロセルのパターンを  
形成する第 1 のアレイと、第 2 の導電性材料から形成されたマイクロセルのパターンを形  
成する第 2 のアレイであって、そのような導電性材料は、前記第 1 のアレイの金属種とと  
もに少なくとも 1 つの電場を自発的に生成するための少なくとも 1 つのボルタ電池を定義  
可能である、第 2 のアレイと、を備え、  
当該創傷管理システムは、更に少なくとも 1 つの不連続領域を備える、  
ことを特徴とする創傷管理システム。

[ 付記 1 7 ]

前記少なくとも 1 つの不連続領域が、少なくとも 1 つのスロットを備える、  
ことを特徴とする付記 1 6 に記載の創傷管理システム。

[ 付記 1 8 ]

2 つ以上のスロットを備える、  
ことを特徴とする付記 1 6 に記載の創傷管理システム。

## 【 手続補正 2 】

【 補正対象書類名 】 特許請求の範囲

【 補正対象項目名 】 請求項 1

【 補正方法 】 変更

【 補正の内容 】

【 請求項 1 】

少なくとも 1 つの低レベル電場 ( L L E F ) 又は低レベル微電流 ( L L M C ) を生成することが可能な生体適合性電極を備える基体を備える創傷被覆材であって、  
前記基体は、少なくとも 1 つの長軸を備える少なくとも 1 つの不連続領域を備え、  
当該創傷被覆材が、前記長軸に対して垂直に拡張可能である、  
ことを特徴とする創傷被覆材。

## 【 手続補正 3 】

【 補正対象書類名 】 特許請求の範囲

【 補正対象項目名 】 請求項 1 3

【 補正方法 】 変更

【 補正の内容 】

【 請求項 1 3 】

前記 L L M C は、1 から 1 0 0 マイクロアンペアの間である、  
ことを特徴とする請求項 1 2 に記載の被覆材。

## 【 手続補正 4 】

【 補正対象書類名 】 特許請求の範囲

【 補正対象項目名 】 請求項 1 4

【 補正方法 】 変更

【 補正の内容 】

【 請求項 1 4 】

前記 L L M C は、1 0 0 から 2 0 0 マイクロアンペアの間である、  
ことを特徴とする請求項 1 2 に記載の被覆材。

## 【 手続補正 5 】

【 補正対象書類名 】 特許請求の範囲

【 補正対象項目名 】 請求項 1 5

【 補正方法 】 変更

【 補正の内容 】

【 請求項 1 5 】

前記 L L M C は、1 5 0 から 2 0 0 マイクロアンペアの間である、  
ことを特徴とする請求項 1 2 に記載の被覆材。

## 【 手続補正 6 】

【 補正対象書類名 】 特許請求の範囲

【 補正対象項目名 】 請求項 1 6

【 補正方法 】 変更

【 補正の内容 】

【 請求項 1 6 】

少なくとも 1 つの軸に沿って拡張可能な創傷管理システムであって、  
そのような創傷管理システムは、生体適合性マイクロセルのマルチアレイマトリクスを  
その表面に備える柔軟性の被覆材料を備え、

そのようなマトリクスは、第 1 の導電性材料から形成されたマイクロセルのパターンを形成する第 1 のアレイと、第 2 の導電性材料から形成されたマイクロセルのパターンを形成する第 2 のアレイであって、そのような導電性材料は、前記第 1 のアレイの金属種とともに少なくとも 1 つの電場を自発的に生成するための少なくとも 1 つのボルタ電池を定義可能である、第 2 のアレイと、を備え、

当該創傷管理システムは、更に少なくとも 1 つの長軸を備える少なくとも 1 つの不連続領域を備え、

当該創傷管理システムが、前記長軸に対して垂直に拡張可能である、  
ことを特徴とする創傷管理システム。